

Yamakado News Letter



中央湿原より対岸コナラ林越しに守護岩を望む 4/20

例年より早く進む春にてんてこまい

4月20日、カスミザクラが見頃になってきました。ここ5、6年の観察では5月1日前後が見頃になるのが多いのですが、それより10日ほど早い開花になります。ミツガシワも開花は早めです。昨年の観察記録を調べてみると、昨年付属湿地のミツガシワが開花したのは4月17日でした。ところが今年は4月9日です。少し標高が高い湿原のミツガシワは、それから10日ほど遅れての開花になり例年GW辺りが見頃なのですが、今年は随分前倒しになりそうです。

同様にササユリの成長も例年より早く、真っ先に芽が出る沢道大滝の保護区画では4月18日現在で花芽をつけたササユリが既に40cmに成長しています。

山門水源の森では1mを超える積雪がありますから、冬期は破損防止にネットを撤収しています。そして毎年春には植物の芽吹き速いものから順に防獣ネットの再設置を行なっています。しかし今年の春は保全作

業のスケジュールがほぼ同時進行になってしまいました。遅れている湿原の防獣ネットやトタンの再設置と併せて、ササユリ保護ネットの再設置を急ピッチで進めないといけません。上層のブナ林ではササ用防獣ネットの補修作業もあります。何もかも同時進行で、保全作業もてんてこまいです。

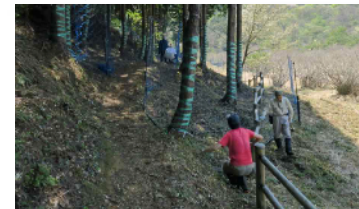
毎月第1・第3土曜日は保全作業の日となっており、会員による保全活動が行われています。また土日はムリでも、平日なら可能という方もおられます。そうした方々にも協力頂き、コツコツと保全作業を進めています。この春はFaceBookなどを通じて一般参加も呼びかけたところ、まだまだ数は少ないですが保全活動に協力して頂ける人も出てきました。そうした皆さんのおかげで、何とかこの春も、この森を次世代に残せる作業を進めることができました。



今期より湿原一部にAFネット導入



一般参加者とネット再設置作業



中央湿原ササユリ保護区の整備
Photo Fujimoto



ブナの森のササ保護区の整備
Photo Murata

次の世代にこの森を引き継ぐために、 様々な組織や人々との連携を進めています

一昨年より夏原グラントの助成を受けて組織強化の取り組みを行ってきました。助成期間は終了しましたが、取り組み自体は終わっていません。任意団体がこの森の保全活動を継続して行くことは財政的にも人材的にも容易なことではありません。そのような状況ではありますが、引き継ぐ会の会員の皆さんはもちろん、様々な組織や人々との連携も進めながら、持続可能な保全のあり方を模索していきたいと考えています。

そんな中、この春にはいくつかの動きがありました。例年**大阪大学のグローバルコラボレーションセンター**からは「森林での生態系保全」のモデル地域として体験も含めた実習を目的に、学生さんが何名か来られます。昨年このフィールドワークを受講された日高さん（修士2年）らが今年1年かけて山門水源の森のPR映像を作成したいとのことで、3月28日来訪されました。

山門水源の森には暖地に生育するヤブツバキと、多雪地域に生育するユキツバキとの雑種であるユキバタツバキが群落を形成しています。4月14日、**新潟大、京都大、森林総研**から6名の研究者がユキバタツバキの現地調査に来られました。現地を初めて見られた研究者からは、狭い範囲にこれほどの多様性があるとは想像していなかったとの感想を述べられました。



大阪大院生 日高氏ら 3月28日



新潟大 阿部氏らツバキ調査 4月14日



岐阜市立青山中教員の皆さん 4月15日



琵琶センター中川氏 4月17日

この調査によって得られた結果が、この森の価値につながってゆくことを期待しています。

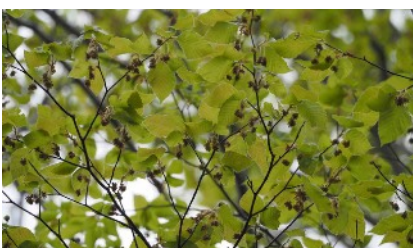
その翌日の4月15日、**岐阜市立青山中学校**の一年生担当の先生方が来訪。青山中では2011年から毎年6月に1年生がこの森で保全体験学習をされています。その事前確認で先生方が来られました。体験時間は90分程度と短いですが、その受け入れの下準備は数日かかります。引き継ぐ会にとっては大変労力のかかる活動ではありますが、生徒たちの心に何らかの印象を残し、それが次の世代の活動につながればとの思いで取り組んでいます。

また4月17日には**琵琶湖環境科学研究センター**より、中川氏が来訪。

これは琵琶センサーがこの森で独自の調査をされており、前任者からの引き継ぎによる現地確認のためです。引き継ぐ会とは直接関係があるわけではありませんが、琵琶センサーには水源涵養の観点から土砂移動調査などでもお世話になっており、今後も互いに良好な関係が構築できればと思っています。

4月18日には**(株)山久本社**で5月に予定の社員向け保全作業体について協議しました。(株)山久は滋賀県と山門水源の森ネーミングライセンス契約を結び、ネーミングライツパートナーとして支援を頂いています。この活動が社員の方々の福利厚生とこの森の保全との相乗効果を生む活動になればと思っています。

今月の森の様子



今年はブナの花が多成り 4月12日



付属湿地隣で囀るオオルリ 4月17日



随分成長が早いササユリ 4月18日